# 「四十八曲峠古道」

○　指　　定　　千曲市指定史跡　昭和 62 年 1 月 27 日
○　所 在 地　　千曲市大字上山田 3757 番地 479
○　所 有 者　　千曲市
○　概　　要　　古道　　幅１m未満（字扇平地籍境から坂井村境までの字大窪地籍）
○　時　　代　　不詳
○　公　　開　　いつでも可

四十八曲峠古道は、古代奈良、京都から美濃を経て遠く関東、奥羽方面へ通じる古代の官道「東山道」のわき道として村上郷(千曲市も含む)と麻績郷を結ぶ大切な道であったと考えられます。この道が「波閇科坂」「波閇科越え」あるいは「波閇科峠」道そのものであったかどうかは不明で、古くは「八坂」といわれていた道かも詳しいことは分かりません。

平安時代末(12 世紀)に、伊勢内宮領となった麻績の御厨と、鎌倉時代初頭（13 世紀）同様に伊勢内宮領となっていた村上の御厨（千曲市を含む）を結ぶ道として村上の里（内宮領）側へは立石峠、山田の里（外宮領）側へはこの峠を利用していたものと考えられます。

江戸時代の俳人松尾芭蕉はこの峠は通りませんが、『更科紀行』の中に「四十八曲とかや･･････」と関連する言葉を残しているのも注目されます。

この峠道を越えて相互の生活が冠着山をめぐる信仰の共通性をはじめ、民俗行事の一致、そして通婚が多く行なわれていたことを見ても、この道が古代から近世にわたって、きわめて重要なものであった事を偲ばせるものがあります。

四十八曲峠古道登り口